

あきの舞

～優しい甘みと、程よい粘り 鹿児島のお米の**新品種**～



秋に収穫する米。

たわわに実った稲穂が風で心地よく舞うイメージを表現して名付けられました。

「あきの舞」の味わい

- ◆ 「ヒノヒカリ」と比べて粒はふっくら大きく、優しい甘みと程よいモチモチ食感が特長です。
- ◆ 厳しい暑さの中でもしっかり育つので、粒がきれいでハリがあり、炊き上がりはツヤツヤと輝きます。



「あきの舞」開発の背景

- ◆ 「ヒノヒカリ」は鹿児島県で最も多く栽培されている、鹿児島県民に馴染みの深い、おいしいお米です。
しかし、夏の暑さに弱いため、近年は温暖化の影響により白未熟粒(白く濁ったお米)が多くなり、品質の低下が課題となっています。
- ◆ 暑さによって品質が低下すると、見た目だけでなく、味も落ちる懸念があります。



整粒(左)と、白未熟粒(右)

※画像: 農研機構HP
「食卓に迫る 地球温暖化の影響と対応策」

「あきの舞」の系譜

- ◆ 鹿児島県が、暑さに強い品種を開発するため、平成25年から約10年かけて育成し、令和7年に本格栽培が始まりました。
- ◆ 同じ県育成の「なつほのか」を母にもち、暑さに強く、収量性が高く、食味に優れる特性を引き継いでいます。

母

なつほのか

父

関東263号

あきの舞

関係者のコメント

中津川採種生産組合 組合長 福丸 一博さん



暑さに強く、白未熟粒(白く濁ったお米)が少ないのが特長で、いもち病にも強いので、米農家にとって栽培しやすい、これから期待の新品種です。
「ヒノヒカリ」に替わる品種として最適ではないでしょうか。

鹿児島パールライス(株) 五つ星お米マイスター 松元 良介さん



「ヒノヒカリ」よりも粒が大きくきれいで、口に含むと香りが広がり、舌触りがとても良いです。
程よい粘りと硬さがあり、とても美味しい、多くの方に好まれるお米だと思います。

- 「あきの舞」は高温に強く、収量性が高いことから、水稻農家の所得向上につながると考えています。
- 鹿児島県米・麦等対策協議会では引き続き、計画的な種子生産に努めながら、作付面積の拡大に取り組んでまいります。